

## だから遠足に行く

～「豊かな感性」「健康な集団」～

2023・4・26 重枝 一郎

社会の変化，未来の不透明さ・・・聞き飽きたフレーズである。実は，私が教師になったところから言われている。そのフレーズと同様「豊かな感性」というフレーズもよく聞くフレーズである。「感性」の教育とは・・・。

実はいつの時代も，若者の「感性」には驚かされることが多い。特に「音」や「色」についての「感性」は，鋭敏さや繊細さをもっている。だから、「芸術教育」は大切。では，一般的に人格の基盤となる「感性」はどうだろう。人との交わりを大事にするとか，自然を愛するとか，物事を深く考えるとか・・・。

「感性」には「入」と「出」があると言われる。どのように感受できるかという側面と，どのような配慮をしながら自分の発言や行動をしていくかという面である。「感性」は必ずしも生得的なものでもなく，体験の積み重ねの中で培われていく。

ところが今は，情報過多で，個人としての経験の幅や機会が少なくなっている。これは，外遊びの減少も関わっていると思う。外遊びの中では，何も無いところから，自分で，自分たちで決める経験がある。これは貴重な経験である。今は，いろいろな情報をもとに知識は多くなっているけど，それが経験の過程で「なるほどそうだ」と思える納得までになっていない。つまり，それは表面的な「感性」であり，自分の実感の中で広がったり深まったりしていない。このことは，自分の「感性」を拠り所として，物事を考えたり探究したりしていく基礎がつかられていないことになる。今，新カリにおいて探究学習があるが，基礎の部分の「感性」はとても大切だと思う。

では，どうしたらよいのだろうか・・・。

今，学校教育の中で，体験的学習は多く組み込まれている。教科の学習過程の変化もあり，自らヒト・モノ・コトに関わっていくことで体験的になっている（主体的）。これらを通して，体験の蓄積を図り，「感性」を呼び覚まし，感性の陶冶を目指していくことになる。

その中で，目に見えるものより，目に見えない心の真実を大切にしていく。生徒の心を研ぎ澄まさせ，他者の痛みを自分の痛みとして感じる心をはぐくむことができる心をはぐくむ。これはまさに本校の風土だと思う。大切にしなければならぬ。生徒にいろいろな経験を積みませ，その経験から「豊かな感性」を育てていきたい。

このような教育は，「新しい感情体験」をすることが多い。人は，ある特定の感情，特定の認知，特定の行動にとらわれると，ワンパターンの生き方，在り方になる。生き方，在り方が固定化させる。結果として，孤立したり，あるいは自分たちの集団から異質を排斥したりする行動をとる。このような状態に陥ってしまった集団を「病んだ集団」という。この最たるものがいじめ集団である。「豊かな感性」は，このような集団をつくらぬ。「健康な集団」になる。「健康な集団」とは，仲良くでき，居場所感があり，防衛せず自己表現ができ，模倣や試行錯誤の機会に恵まれている集団のことである。

新クラスになった生徒たちの様子はだろうか。友達づくりに出遅れたと思っている生徒もいるかもしれない。慌てる必要はないと言ってほしい。しかし私たちは，「健康な集団づくり」の取組を進める必要がある。人と交わる機会をつくっていかなくてはな

らない。**だから遠足に行く！だから「Love&Leadership」！**